

2021/4/16

(うとQ世話し 毎月発刊「ニューノーマル探索サバイバル日記」オマケの掌編・短編小説に替えて、4月の巻から「オマケの英語教室」を始めます)

「辞書を置かない英語教室」

というのが、当店併設「すすき野留学」開業当初のコンセプトでした。

意味は、

「既にみなさん、十分な単語数を頭の中に持っていらっしゃる。アジアの諸外国の人に比べても語彙数は格段に多い。場合によっては「えっ、なんでそんな単語まで知っているの？」

というような珍しい言葉まで知っていることもままある。例えば ultra (ウルトラ)

「超」の意味ですが、外国の人にはあまり耳慣れないようです。まあ、幾分大げさなジェスチャーを添えて、語気を強めて great というくらいが、せいぜいでしょうか。

なので、わざわざ新たに単語を追加して覚える必要はそれほどなく、今知っている単語を使いまわしたり、組み合わせた合わせ技で凌いだりした方が、時間や手間の面で、そうして精神的負担も少なく、遥かに効率的、効果的なので、そういうコンセプトにしました。

いや、むしろ新たに単語を覚えることの方が、返って上達の妨げになる場合もあるからです。折角持っているお宝を持ち腐れにすることなく、活かして楽しむ。

楽しむというのは、覚えるのではなく(これって苦痛ですよ)考え出して使う(発見があって面白いと思います)ことの喜びから来ています。

例えば漢字では、結構その場で即興の熟語を作ることがありますでしょう？

一例をあげれば「始季(しき)」

こう書けば、そんな語句はなくても我々は、何かが始まる季節なのだろう。例えば今なら4月の入学入社の季節。と想像がつくわけです。

英語も同様で、動詞と前置詞をその場で組み合わせることで造語が出来てしまうのです。

例えば、kick out で out の「外」のイメージから「蹴りだす」という意味に使えますし、kick away なら away の「次第に離れていく」イメージから「遠くの方に蹴っ飛ばす」という意味にも使えます。いちいち逐一对訳で覚える必要はないのです。その場で考えて組み合わせればいいのです。

上述のように、前置詞や動詞の基本的なイメージさえ押さえておけば直ぐにできてしまうのです。

いやむしろ、英語は「その場その場で生まれる造語の集まり」と言ってもいいかもしれません。

だからますます、辞書はいらない。

なので、辞書を置かない英語教室と名付けました。

ご興味のある方はどうぞお読みくださいませ。4月の巻からの「オマケ」シリーズを。